|  |
| --- |
| **指定管理運営業務評価　５年間の総括** |
| 施設名称：青少年海洋センター・青少年海洋センターファミリー棟 | 指定管理者：ナンブフードサービス㈱、ＮＰＯ法人ＮＡＣ、㈱ＢＳＣ・インターナショナル | 指定期間：平成２８年４月１日～令和３年３月３１日 | 所管課：政策企画部 青少年・地域安全室 青少年課 |
|  |
| 評価項目 | 評価基準（内容） | 上段：指定管理者の自己評価 | ５年間の総括 |
| 下段：施設所管課の評価 |
| 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和２年度 | 施設所管課 | 評価委員会 |
| Ⅰ提案の履行状況に関する項目 | ・利用者数については、平成２９年度は和歌山国体の影響により、海洋センターは年平均目標数を上回り、海風館においても目標数に迫る増加が見られた。しかしながら、その他は年平均目標数を下回る結果となり、特に、令和２年度はコロナ禍の影響により、相当数の減少が見込まれている。・収支実績についても、黒字は平成２８年度の海洋センターのみであり、その他は赤字状態である。令和２年度はコロナ禍の影響による利用者数の減少に伴い、大幅な悪化が見込まれる。・しかしながら、これら業績の悪化は、近年の地震や台風などの自然災害の増加、みさき公園の閉鎖、コロナ禍などの外的要因による影響があったものと分析され、海風館の臨時休館（令和２年１１月から令和３年３月末まで）についても、コロナ禍の影響により利用者が大幅に減少し、利用者数の回復が見込めず、開館継続が困難であることから、指定管理者の申出を受け、承認したものである。そのため、指定管理者の運営に問題があったとは一概には言えず、むしろ、このような厳しい状況下において、経費の節減を図りながら、利用者満足度を下げることなく、また、大きな事故を起こすこともなく、この５年間運営をされたことは評価に値するものと考える。・評価委員会からの指摘・提言や利用者アンケートで寄せられた意見、職員・ボランティアリーダーからの意見を参考にし、新たなプランの創出や岬町との連携強化、インターネット予約機能の拡充、ＳＮＳの活用など、この５年間で順次、実現可能なものから取入れ、サービス向上・利用促進に努められていた。・施設の維持管理については、日常点検や軽微な補修は適宜実施されており、施設所管課との連携を図りながら、効果的な維持管理が行われていた。また、安全管理にも努め、利用者が安心して利用できる環境づくりが行われていた。・以上のことから、５年間の総評としては、業績は目標には及ばなかったものの、サービス向上に対する姿勢や利用促進、安全な管理運営の遂行といった取組内容自体は評価できるものであり、良好な施設運営が行われていたと言える。・今後の課題としては、閑散期の利用が増えていない点や外的要因による影響を非常に受けやすい点、また、収支状況の悪化により運営母体が影響を受けており安定的な運営・継続性への懸念がある点である。・平成２９年度は和歌山国体の影響で利用者数が増加したときの状況からも、団体利用の受入能力は十分に備わっており、レクリエーション施設として集客力のポテンシャルはあるものと考える。よって、年間を通じて安定的な利用が見込まれるプランや施設の新たな有効活用方法の創出、ニーズの発掘を次期指定管理者に期待したい。 | ・海洋センターについては、利用者数や収支の状況を見ると令和２年度を除き健闘していると言える。子どもから高齢者まで幅広い年齢層に向けての多様な自主事業が実施されており、施設の目的に適う管理・運営がなされてきたものとして評価したい。・一方の海風館については、様々な努力をしているにもかかわらず、利用者数が目標に到達したことはなく、また、支出が収入を大きく上回る状況が続いている。指定管理者による施設管理・運営のみに頼っていては、今後の状況の好転を見込むことは難しく、施設のあり方も含めた抜本的な見直しが必要ではないかと考える。例えば、閑散期の利用促進という観点で、インバウンドなどの旅行客の誘致を図るとか、あるいは、南大阪、泉州地域といった広域的な枠組みによる観光促進の取組みが行われている中に、体験型施設の海洋センターと宿泊施設の海風館を一体で組み込み集客を図るなど、地元自治体と協議しながら進めてはどうかと考える。・現在は新型コロナウイルス感染症の影響で入国制限となっているものの、平成２８年度より外国人の観光が増加傾向にあることから、インバウンド向けのメニュー開発などの取組みを進めることで、施設利用者の増加を図れるものと考える。 |
| （１）施設運営方針 | ・提案した管理運営方針に沿った管理・社会貢献活動、環境活動、法令遵守の取組み | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ｓ | Ｓ |
| （２）平等な利用を図るための具体的手法・効果 | ・平等利用確保のための基本方針・高齢者、障がい者等に対する配慮 | Ａ | Ａ | Ａ | Ｓ | Ｓ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| （３）利用者の増加を図るための具体的手法・効果 | ・利用者の増加を図るための方策指定管理期間の年平均目標来館数＜海洋センター＞　６８,０００人＜海風館＞　　　　１２,５００人

|  |  |
| --- | --- |
| 施設利用者数の推移 | 単位：人 |
|  | H28 | H29 | H30 | R1 | R2(見込) |
| 海洋Ｃ | 宿泊 | 32,475 | 33,632 | 32,039 | 30,164 | 8,086 |
| 日帰り | 34,441 | 34,706 | 34,595 | 33,622 | 19,144 |
| 計 | 66,916 | 68,338 | 66,634 | 63,786 | 27,230 |
| 海風館 | 宿泊 | 6,229 | 7,074 | 6,614 | 5,784 | 745 |
| 館外 | 470 | 416 | 333 | 297 | 38 |
| 館内 | 1,873 | 3,072 | 1,703 | 1,804 | 2 |
| 計 | 8,572 | 10,562 | 8,650 | 7,885 | 785 |
|  |

 | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| Ｂ | Ｂ | Ａ | Ａ | Ａ |
| （４）サービスの向上を図るための具体的手法・効果 | ・提案のあったサービス向上策の取組み | Ａ | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| （５）施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度 | ・施設設備の効果的な維持管理・施設設備の安全管理・緊急時の危機管理体制 | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ |
| Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ |
| （６）自主事業実施計画の実施状況 | ・自主事業の取組み | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| （７）施設・設備の改修・整備及び購入計画の実施状況 | ・施設設備改修等が提案どおり実施されているか | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ |
| Ｓ | Ｓ | Ａ | Ａ | Ａ |
| （８）管理運営経費縮減方策 | ・管理運営費の縮減方策が提案どおり実施されているか | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| （９）府施策との整合 | ・府、町実施事業等への協力の取組み・行政の福祉化の取組み・府民・ＮＰＯとの協働の取組み・環境問題への取組み | Ａ | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| Ⅱさらなるサービスの向上に関する事項 |
| （１）利用者満足度調査等 | ・利用者の満足度調査、調査結果のフィードバック | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| （２） 自主事業 | ・その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫 | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ｓ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| （３）その他創意工夫 | ・その他創意工夫の取組み | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| Ⅲ適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目 |
| （１）収支計画の内容、適格性及び実現の程度 | ・事業収支計画、事業収支実績状況

|  |  |
| --- | --- |
| 施設運営収支の推移 | 単位：千円 |
|  | H28 | H29 | H30 | R1 | R2(見込) |
| 海洋Ｃ | 収入 | 284,626 | 279,349 | 274,081 | 269,442 | 188,888 |
| 支出 | 283,351 | 280,529 | 286,363 | 281,247 | 215,985 |
| 計 | 1,275 | ▲1,181 | ▲12,282 | ▲11,805 | ▲27,097 |
| 海風館 | 収入 | 68,077 | 71,772 | 62,056 | 57,572 | 7,704 |
| 支出 | 84,367 | 86,313 | 82,749 | 79,470 | 33,543 |
| 計 | ▲16,290 | ▲14,541 | ▲20,693 | ▲21,898 | ▲25,839 |
|  |

 | Ｂ | Ａ | Ｂ | Ｂ | Ｂ |
| Ｂ | Ｂ | Ｂ | Ｂ | Ｂ |
| （２）安定的な運営が可能となる人的能力 | ・職員体制、配置・管理監督体制、責任体制・指導育成、研修体制・従事者への管理監督体制・責任体制 | Ａ | Ｓ | Ｓ | Ｓ | Ｓ |
| Ａ | Ａ | Ｓ | Ｓ | Ｓ |
| （３）安定的な運営が可能となる財政的基盤 | ・法人等事業者の経営規模、事業規模、組織規模等の運営基盤 | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| Ａ | Ａ | Ａ | Ｂ | Ｂ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 施設所管課の評価 |  | ＜評価の基準＞●項目ごとの評価Ｓ（計画を上回る優良な実施状況）Ａ（計画どおりの良好な実施状況）Ｂ（計画どおりではないが、ほぼ良好な実施状況）Ｃ（改善を要する実施状況）●年度評価Ｓ（項目ごとの評価のうちＳが５割以上で、Ｂ・Ｃがない。）Ａ（項目ごとの評価のうちＢが２割未満で、Ｃがない。）Ｂ（Ｓ・Ａ・Ｃ以外）Ｃ（項目ごとの評価のうちＣが２割以上。又は、Ｃが２割未満であっても、文書による是正指示を複数回行う等、特に認める場合。）●総合評価及び最終評価Ⅰ（評価対象となる年度の年度評価のうちＳが５割以上で、Ｂ・Ｃがない。）Ⅱ（評価対象となる年度の年度評価のうちＢが３割未満で、Ｃがない。）Ⅲ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ以外）Ⅳ（評価対象となる年度の年度評価のうちＣが５割以上。ただし、評価対象期間の後半、取組状況に継続的な改善傾向が認められる場合を除く。） |
| 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和２年度 |
| 項目ごとの評価〈全１５項目〉 | Ｓ | ２13.3% | ２13.3% | ２13.3% | ３20.0% | ３20.0% |
| Ａ | １１73.3% | １１73.3% | １２80.0% | １０66.6% | １０66.6% |
| Ｂ | ２13.3% | ２13.3% | １6.6% | ２13.3% | ２13.3% |
| Ｃ | ０0.0% | ０0.0% | ０0.0% | ０0.0% | ０0.0% |
| 年度評価 | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ |
| **最終評価** | **Ⅱ** |